

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

一人一人の個性や能力の伸長及び病状の改善を図り、社会に適応し自立できる豊かで健全な心身を養う。

(目指す幼児児童生徒像)

- ・障害を乗り越え、生涯にわたって力強く生きようとする人
- ・周囲の人々と適切に関わりながら、社会参加しようとする意欲のある人
- ・自己選択・自己決定ができる人
- ・郷土の自然や文化に親しみ、豊かな人生を送ろうとする人

(教育方針)

- ア 自ら学ぼうとする学習態度を育成し、基礎的な学力の伸長及び知識・技能の定着・向上に向けた指導・支援を行う。
- イ 社会参加の意欲と自主・自立の精神の育成に努める。
- ウ 基礎的な体力の向上を図り、健康で安全な生活を営むための生活態度の育成に努める。
- エ 様々な体験活動を通して、協調性と創造的活力を養い、豊かな人間性の育成に努める。
- オ 地域社会との連携を密にし、共生社会の実現に向けた教育の推進に努める。

2 学校の特徴

本校は、県内唯一の視覚障害教育を行う学校として、幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科と、あん摩マッサージ指圧師の国家資格取得を目指す高等部保健理療科、専攻科保健理療科、さらに、はり師・きゅう師の資格取得も目指す専攻科理療科を設置している。

高等部普通科は視覚障害と併せて病弱も対象としており、視覚障害と病弱の二つを教育の対象としている全国唯一の学校である。幼児児童生徒の自立と社会参加、共生・共育の理念の具現化を目指して、学部間・家庭・関係機関等との連携を図りながら、個々の教育的ニーズに応じた指導を推進している。

また、視覚障害教育と病弱教育のセンター的役割を担っており、視覚障害教育については視覚障害教育支援センターを開設し、県内全域の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校等への支援を行っている。通級による指導、早期教育相談、中途障害者の相談、福祉機関・各種ボランティア団体等との連携にも積極的に取り組み、視覚障害教育の充実を目指している。病弱教育については、中学校や適応指導教室、医療機関等と連携を図り、理解啓発に努めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・近年、あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうを学ぶ視覚障害者が全国的に減少している。本校高等部理療科への入学希望者も減少している。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大によって、従来行っていた地域合同防災避難訓練が実施できていない。地域住民からも再開を希望する声が聞こえている。

(2) 課題

- ・校内外に向け、あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうと本校高等部理療科について知ってもらう取組や発信が必要である。
- ・地域住民参加の防災避難訓練及び講習会を実施し、在籍する幼児児童生徒とともに地域住民に避難場所としての本校について周知する必要がある。